

平成 23 年 4 月 14 日
国土交通政策研究所

鉄道駅におけるレンタサイクルの利用実態に関する調査研究（報告）

環境にやさしい交通手段として自転車が注目されています。行楽地のレンタサイクルは以前からありますが、最近では都市部の鉄道駅にレンタサイクルポートを設置する例が出てきています。

そこで、当研究所では、都市部におけるレンタサイクル活用の方向性を探るために、阪急レンタサイクルと世田谷コミュニティサイクル「がやリン」のうち、レンタサイクルと駐輪場が併設されている（もしくは近接している）各 2 駅を対象として、レンタサイクルの利用実態を調査しました。

主な結果は以下の通り。

1. レンタサイクルの利用実態

- ・ レンタサイクル利用者の 91%が定期利用。
- ・ 駐輪場利用者では、アクセス利用（自宅から駅まで）が 96%で、イグレス利用（駅から目的地まで）は 4%にとどまるが、レンタサイクルでは 48%がイグレス利用。レンタサイクルのイグレス利用においてもほとんど通勤・通学の定期利用であり、得意先回り等業務利用や買い物等の利用はごく少数であったが、レンタサイクルの認知度が高まるにつれてそうした利用が増える可能性がある。
- ・ 世田谷コミュニティサイクル利用者のうち 73%が借りた場所以外のポートへ返却したことがある。

2. レンタサイクルの利用理由（回答の多い順）

- ・ ポートが近く鉄道を利用しやすい
- ・ 自転車のメンテナンスが不要
- ・ 所要時間を短縮できる（特にイグレス利用）
- ・ 駐輪スペースを探す手間がかからない
- ・ 他の交通手段では行きづらいところに行ける

3. レンタサイクルの導入効果

- ・ レンタサイクルを利用する前は別の駅を利用していたとの回答が 20%。駅選択の一要因となっている。
- ・ レンタサイクルを利用するようになって鉄道利用が増えたとの回答が 14%。末端交通手段の充実は利用増に寄与することが伺える。
- ・ 同じ面積であれば、利用可能者数は駐輪場の 2.3 倍。

4. 今後の課題

- ・ 認知度アップ
- ・ ポート設置駅の増加
- ・ 交通系 IC カードとの共用

[問い合わせ先]

国土交通省 国土交通政策研究所 研究官 井上 延亮（内線 53827）
（中央合同庁舎 2 号館 15 階） 総括主任研究官 増田 直樹（内線 53831）
電話：03-5253-8111（国土交通省代表）、 03-5253-8816（国土交通政策研究所直通）